

Interview

約2年前から民泊に向けて準備に取り組んできた民泊協力会の皆さんや、実際に民泊を体験した選手団の皆さんに、民泊を終えての感想を聞きました。

大切な子どもさんの命を預かるといふ責任感の下、私たちも子を持つ親として皆で衛生面に気を付けながら、調理に励みました。最初は選手の皆さんに喜んでもらえる料理を作れるか不安でしたが、余分に炊いたご飯まで残さず食べてくださるほど、美味しそうに召し上がっていただき、作った甲斐がありました。

また、調理班の中には久しぶりに顔を合わす方もおられ、そのような方々と一丸となって活動できたことが、本当に楽しかったです。



芝民泊協力会調理班の皆さん

選手団に喜んでいただけるよう、協力会一同、日本の心「おもてなし」をもって、選手団をお迎えしました。

夏休み期間中には、芝地区の子どもたち約25人が集結し、可愛らしい飾り付けを行いました。子どもからお年寄りまで、いろんな方の協力があったからこそ、民泊が成功したのだと思います。

当初、さまざまな不安がありましたが、芝地区が一体となって成し遂げることができました。今後も、この団結力を活かしていきたいです。



芝民泊協力会役員の皆さん

2年前、民泊協力会の代表者らで「わかやま国体」に視察に行きました。会場に到着し、最初に応援させていただいたのが北海道選手団でした。私はその時から「北海道を引き当てる」と周りに宣言していました。まさか、それが実現するとは夢にも思っていませんでした。

一勝一敗という結果でしたが、勝つ喜びと負ける悔しさを味わわせていただきました。青春時代を思い出させてくれてありがとう。感動をありがとう。民泊最高！



芝民泊協力会 会長・家庭班
宇都宮 好一さん

鬼北町に来たのは2回目ですが、自然豊かで、風が気持ち良く、空気がとても美味しい町ですね。

民泊は初めての体験だったので、初めはとても緊張しました。しかし、大宿の皆さんが本当の父、母や祖母のように接してくださったので、次第に緊張がほぐれました。また、送り迎えの時などには、明るく声をかけてくださって、とても嬉しかったです。

鬼北町の皆さんは、おもてなしの心に溢れていると感じました。



高知県選手団の皆さん

2泊3日という短い期間でしたが、我が子たちと本当の兄弟のように過ごす姿が、とても微笑ましかったです。次男が野球をしているのですが、選手たちとふれあったことで感化され、「もっと野球を頑張らんといいけん」と奮い立っていました。

会場では、家とは違う格好良い姿を見させていただき、感動しました。来年開催される「ふくい国体」にもぜひ応援に行きたいです。

「民泊をやって本当によかった」この一言に尽きます。



O-YADO民泊協力会 家庭班
清水 悟さんご家族

民泊協力会を立ち上げたものの、選手たちに最高のおもてなしができるのか不安で仕方ありませんでしたが、選手たちの笑顔や、実家のようにリラックスしている姿を見て、協力会一同「民泊大成功」と感じています。

また、民泊を通し、大宿の団結力もさらに高まりました。

選手団の皆さんや、大宿の方々をはじめ、民泊に携わってくださった皆さん、本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございます。



O-YADO民泊協力会 会長
久保田 安夫さん